

時事通信社 iJAMP

iJAMP記事

【トップインタビュー】 ◇県民満足度日本一の議会に＝土井隆典・神奈川県議会議員

15/12/14 08:45 NG023

5月に神奈川県議会の第108代議長に就任した土井隆典氏（どい・りゅうすけ＝56）は、「県民満足度日本一の議会にしたい」と機会があるごとに語る。そのためには「県民にも議会に目を向けてもらうことが必要」と、就任以来さまざまなアイデアを出し、改革に取り組んでいる。

議場の傍聴席に小さな子どもを連れた母親がいることに気付くと、早速手を打った。11月末の本会議から託児室を開設し、安心して傍聴できるようにした。

また、本会議だけで実施しているインターネット中継を、「委員会レベルまで広げ、議会情報コーナー（仮称）にタブレット端末を置き、ネット中継を見られるようにしたい」と言う。県庁舎の耐震補強工事に合わせて議場正面の壁に大型スクリーンを2基設置するほか、体に障害のある議員が誕生することを見込んで階段をなくすといったバリアフリー化も目指す。4月から手話言語条例が施行されたのを受け、本会議で「手話通訳を常時行い、手話をスクリーンに映し出すことも考えている」。

この他、速記を廃止し、速記者席を置いている場所に対面式演壇を新設するプランも。今は議員による再質問などは議員席の最前列に設けられた質問者席で行うことになっているが、演壇で実施するようにする考えだ。

和歌山県御坊市出身。拓殖大政経学部時代、実家が近く顔見知りだった二階俊博氏（現自民党総務会長）の東京事務所を手伝ったのが政治の世界に進むきっかけとなった。卒業後、民間会社でサラリーマン生活を1年だけ送り、1983年から12年間、小泉純一郎衆院議員の秘書を務めた。

「自分をここまで育ててくれたのは小泉だし、小泉の秘書をやっていなければ、ここまでなかった」と振り返る。議長に決まった5月議会、そして11月に横浜市内のホテルで行われた「議長就任を祝う会」には、「政治の師であり、おやじ以上のおやじ」と仰ぐ師から譲り受けた「J. K」のイニシャル入りのスーツを着て臨んだ。

「議長になって一番つらいのは、乱を好んで乱を起こす方だったのが、乱を収める立場になったこと」と県議との違いを痛感しつつ、「乱を抑える方法は知っている」と調整役に徹する構えだ。

議長・副議長は1年で交代するのが慣例となっているため、任期は残り半年足らず。だが、「1年で全部を成就させようとは思っていない。種をまくことが大事。議長をやめてからでもできる」ときっぱり。「県民満足度日本一」という大きな目標に向け、改革の手を緩めるつもりはない。

〔横顔〕39歳で県議（自民党）に初当選し、現在5期目。大の阪神ファンで、愛犬の名前も虎太郎（こたろう）。県庁の執務室の机には阪神の球団旗が。忙しくて、最近では年に1、2度しか球場に足を運べないのが悩みという。

〔県の自慢〕鎌倉をはじめ歴史があって、自然も豊か。横浜など都会的なイメージもあり、「来て



土井隆典・神奈川県議会議員

みて楽しいところ」。

〔ホームページ〕 <http://www.pref.kanagawa.jp/>

（横浜総局・沢田昌樹）（了）（2015年12月14日配信）

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.